

# ときめき人

Tokimeki bito



## 詞も曲も あなたにエール 届けます

南方町・柳沢

### 佐瀬 徳さん

させ のぼり  
1942年生まれ 血液型/O型

#### Profile

1963年4月1日から1年間、南方青年団長を務める。趣味はカラオケ。好きな古関氏の曲は、伊藤久男氏が歌った「イヨマンテの夜」と初ヒットとなった「船頭可愛や」。



楽譜は11月29日まで市歴史博物館で展示。著作権譲渡証書がそろった珍しい資料です。

現在NHKで放送中の連続テレビ小説「エール」。主人公のモデルになった作曲家古関裕而氏が手掛けた曲に「南方青年団歌」がある。

1963年の秋。翌年に「南方村」が「南方町」になることが決まり、地元は盛り上がりつつあった。町政施行に合わせ、南方青年団に団歌をと奔走したのは、当時青年団長だった佐瀬徳さん。歌詞は多数あった公募の中から決定したものの、課題は作曲だった。宮城から当選した長谷川峻衆議院議員に、思い切って団歌作りを相談すると、二つ返事で作曲者の紹介を引き受けてくれた。

翌年の3月。待ちに待った曲の完成を知らせる電報が届くと、足早に東京の議員会館へ。作曲は有名な古関氏だと知らされ、気持ちの整理がつかないまま、気付くと古関氏の自宅の敷居をまたいでいた。穏やかな人柄の古関氏に緊張がほぐれた佐瀬さんの耳にテープから流れる団歌が響く。「心地いいメロディーに明るい気持ちになりました。帰りの電車で向かいに座った女学生に歌ってもらい、何度も復習しながら帰ってきました」と懐かしむ。団歌は町制施行式典で盛大に披露された。

今年6月、団歌の楽譜を尋ねる電話が佐瀬さんに入るが、数十年前の原本はすぐには見つからなかった。なんとか見つけ出した楽譜は、資産として適切に管理してもらいたいと市へ寄贈した。「数十年ぶりに責任を果たせました。今後歌い続けてくれたら」。南方で生まれた団歌は、新たな資産となり、歴史を紡いでゆく。

「数十年ぶりに責任を果たせました。今後歌い続けてくれたら」。南方で生まれた団歌は、新たな資産となり、歴史を紡いでゆく。

## 編集後記

▼「コロナ禍だったことが悔しい」。取材した高校生たちの言葉が心に刺さりました。この高校生たちは、いろいろなことが制限される中、その時出来ること、やるべきことを考え、自分なりの解決方法を探していました。精いっぱい力を出し切った。大切なことを思い出させてくれました。(佐々木)

▼ときめき人を取材。私の古関裕而氏の知識は朝ドラ「エール」のモデルというこゝとだけ。取材に向けて調べてみると、南方青年団歌は「オリンピック・マーチ」が世に出る少し前の作品だと分かりました。朝ドラといえば「おかえりモネ」。撮影も始まり、来年の放送が今から楽しみです。(小野寺)

▼「新田駅のある風景」写真発表式では、これまでの新田駅と鉄道の歴史を映した数々の写真が展示されていました。現在の状態も大切ですが、建物やイベントなどの以前の姿、歴史を知ることが、今まで以上に愛着が生まれるのだと学ばせてもらいました。(三浦)



登米市公式ホームページ

(新型コロナウイルス感染症の影響に伴うイベント中止などの情報は市公式ホームページでお知らせしています。) <https://www.city.tomiyagi.jp/>



登米市メール配信サービス

(防犯や防災、イベント・市政に関する情報をメールでお届けします。) <https://mail.cous.jp/tomecity/>